

文芸漫談

奥泉光 × いとうせいこう

SEASON 5

主催 ● 舞台よろず相談所 K・企画

田中小実昌 『ポロポロ』

作家・クリエイターとして活躍する“いとうせいこう”と、芥川賞作家であり大学教授の“奥泉光”が、文学作品を題材にし、笑いを盛り込み、二人で作品を語っていく、漫談形式のトークショーです。同類のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとったような二人の『笑い』が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、“豊かな文学”になるのでは、との試みです。

2020年

1月24日(金)

開場 19:00 開演 19:30

料金 前売2,500円 (全席指定)
当日2,800円

チケットのお問い合わせ

K・企画

TEL&FAX 03-3419-6318

HP <http://www.k-kikaku1996.com/work/bunman/>

E-mail bungei_4comic@k-kikaku1996.com



イープラス

HP <https://eplus.jp/>

チケットぴあ

TEL 0570-02-9999

HP <https://t.pia.jp> (PC・携帯共通)

(Pコード：643-807)

会場 北沢タウンホール

世田谷区北沢2-8-18 (TEL 03-5478-8006)

小田急線・京王井の頭線「下北沢駅」東口(中央口)下車徒歩5分





強調しておくが、我々コンビは笑いと同様、文学に対しても真摯であり続けた。なにしろ『文芸漫談』というくらい文学をおろそかにしては成り立たない芸である。

普通、文学入門書は、*グングン文学がわかる。のが取り柄だが、我々はグングンだけではどうも満足出来ない。理解の速度も重要ではありながら、納得の瞬間ごとにクスクスと笑いが生じないことには、文学の根幹が貧しくなってしまうのではないかと我々コンビは心配しているのである。

豊かな文学、とよく人は言う。けれども、何がどう豊かであるべきかを示す者はまれである。少なくとも我々は、文学を語る事が同時に笑いを呼ぶという事態を希求した。それこそが豊かさのあり得べき具体例だろうと考えたからに違いない。
(『文芸漫談 笑うブンガク入門』 いうせいこう氏 まえがきより)

小説の書き方・読み方がクスクスわかる

ここ数年、書店を訪れると、「小説の書き方」といった類の本がやたらと目につくのは、小説を読みたい人より、小説を書きたい人が多いという、時代の趨勢のなせる業なのであろう。

実際に観客を前に話をしているときには、「入門書」を作ろうとの狙いが殊更にあっただけではなく、とりえず「小説」ないし「文学」を題材に、いとうさんと二人、お客さんの反応を窺いつつ、あれこれ話するのが馬鹿に面白いので、機会を捉えてはほとんど喋っただけの話である。

どちらにしても、面白いのは、やはりライブである。少なくとも喋っている本人たちにとってはそうである。そして、演じる者が楽しめないのでは、観客だって楽しくないという、ジャズのセッションと同じ原則の下で「漫談」は行われた。だから、本書を読んで少しでも面白くと思って下さった方は、是非ともライブにいらして欲しいと思います。

(『文芸漫談 笑うブンガク入門』 奥泉光氏 あとがきより)

【いとうせいこう】

1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業。作家、クリエイター。「ノ・ライフキング」で小説家としてデビュー。最新小説に『小説禁止令に賛同する』。主な作品に『想像ラジオ』『存在しない小説』『鼻に挟み撃ち 他三編』。ノンフィクション・対談集に『国境なき医師団を見に行く』『ラブという業』『今夜、笑いの数を数えましょう』などがある。

HP <http://www.cubeinc.co.jp/ito/>

【奥泉光】

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家・近畿大学教授。「石の来歴」で芥川賞、「東京自叙伝」で谷崎賞、最新刊の『雪の隙』で柴田錬三郎賞を受賞。主な小説に『虫樹音楽集』『シューマンの指』『神器 軍艦「権原」殺人事件』『グランド・ミステリー』など。いとうせいこうとの共著に『文学の聖典』『世界文学は面白い。』がある。

HP <http://www.okuizumi.com/>

文芸漫談コレクション

「すばる」で好評掲載中の『文芸漫談』が1回分ごとシングルカットされて電子版で配信中!!

詳しくはweb(ebooks.shueisha.co.jp/original/)

または **文芸漫談コレクション** で検索!

1本
100円
(税別)